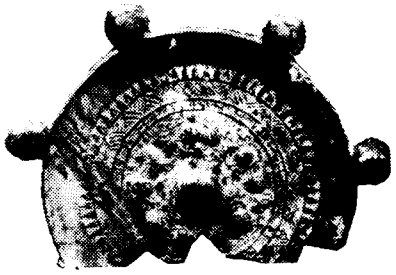
第 44 号　　令和元年 6 月14日

文化財やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡

明建神社「七日祭り」今昔

会長　齋藤武生

多くの歴史・伝統は史料の他、口傳によって受け継がれ今日に至っている。

私は明建神社に伝承されている祭礼「七日祭り」について、その口傳を調べてみた。

明建神社の祭礼「七日祭」（岐阜県重要無形民俗文化財指定）は、およそ八〇〇年前東氏が下総国（千葉県）にて奉納したときに始まったと言われている。

その詳細は史料として保存されている元禄六年（一六九三年）奉行所へ届け出た「祭礼執行之儀式」の他、粟飯原家文書と牧地区の口傳でしか判らない。

祭りの儀式は元禄時代から少しも変わっていないと言われているが、付随する行事は少しずつ変わってきている。その幾つかを記してみる。

◎役者（神輿担ぎ）

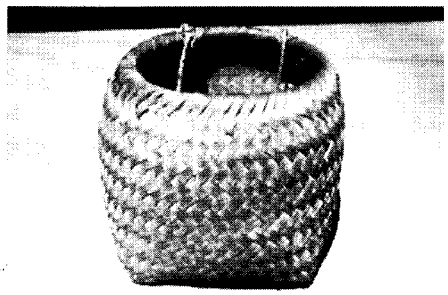
●役者は牧地区の家代々の世襲制で引き継がれている。

しかし神輿を担ぐ四名は牧地区から五キロメートルも離れた落部地区の人達によって行われている。

●大和町史「史料下巻」大坪家蔵東氏家系図による他、口傳では御神体を最初内ヶ谷地区に置き、その後落部地区に安置して御神体をお守りした。

●東家が祭りを奉納するに当たり、この人達の労を敬いて神輿担ぎの役とした。

●御神体を阿千葉まで運んだときに、「みきなし」（籤）（ひご）という籠物に入れ運んだ。



みきなし

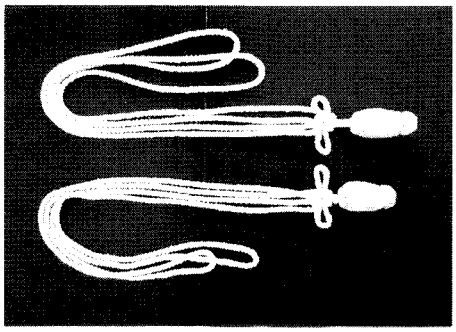
その名残と思われる事として毎年祭りの当日、神主の粟飯原家へ楢の木を剥ぎ鞣（なめ）したもので籠　通称「ひご」（縦三二センチ横二五センチ）を新しく編み持参した。粟飯原家には今でもその籠が残っている。

●落部地区の人達にとっては殿様の祭りに出演すること、また神様に神輿を担ぎ奉仕できることは非常に名誉なことであった。

●当日は着物（浴衣）下着を新しくして参加した。

◎ゆだすき（首に掛けるもの）

●神輿を担ぐときには、首に「ゆだすき」を掛けている。



ゆだすき

この物は、祭りが終わると次回の家に女性に触らす事なく引継がれた。

●引継ぎを受けた家では床の間に飾り置きして、一年間大事に保管した。

現在は神社お宝物殿で保管している。

◎祭りのお礼

●神輿担ぎの落部地区の役者は午前十時には神主の粟飯原家で昼食のご馳走を頂き、祭が終わると一人お米二升　尾頭付の魚一匹　御神酒（どぶろく）一升を頂いた。

現在は昼食と御神酒（どぶろく）一升　白米一升となっている。

●獅子頭役は白米三升　笛頭役は白米二升であった。

現在はいずれも、白米一升となっている。

◎御饌米

●野祭り儀式のとき役者に朴葉の葉にご飯を盛り、笹巻き（千巻）と一緒に渡していた。

現在は封筒に入れたお米を「御饌米」として渡している。

七鈴五獣鏡とは

岐阜県指定重要文化財であり六世紀中頃（約一五〇〇年前）のもの

管理者　徳永多賀神社

鏡は、写真のように、全体の四分の一が欠損している。白銅製で、鏡面は光沢のある灰色を呈しており、文様のある面は外から鋸刃文帯、連続三角形文帯、偽銘帯があり、その内側に小さな五つに乳と形状不明な五獣を拝している。

直径一一・四センチ、周囲に七つの鈴があったが、そのうち三個が欠けている。鈴子は小石で、振るとかすかな音を立てる。

◎御神酒

●仕込むには神社三役（神主禰宜二名）屋号「要助」（土松家）屋号「元禄」（土松家）の五軒が行い、木の樽で約一六升の御神酒（どぶろく）を造った。現在は、神主と屋号「しま」（日置家）でプラスチック製の桶を使用して造っている。

●御神酒は、神前の儀・野祭りの儀で使用するほか牧地区各家へ明建地区の子供二人が桶に入れて担いで柄杓に一杯配って廻った。

牧地区以外の古道地区の屋号「藤十郎」（和田家）栗巣地区の屋号「やまて」（和田家）にも配った。余談であるが、配っていて御神酒が少なくなると谷の水を入れて、補ったとの事である。

現在御神酒配りは行なわれていない。

七日祭りは、現代の芸能的な笑いを誘う祭りとは違い、格式の高い厳粛な神事である。

その本質は今も変わりはないのだが、当時のことが少しでも伝わればと思い記してみた。

千葉市イベント

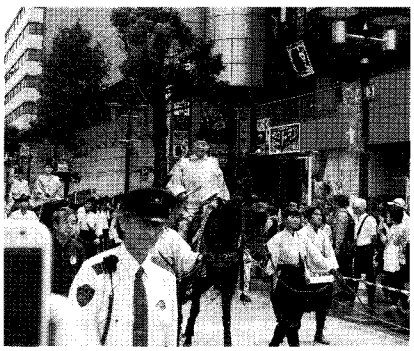
「第二回千葉サミット」に参加して

細江　幸久

五月二六日早朝六時に大和庁舎駐車場でバスに乗り込み一路高速で千葉に向かう。

岡崎SAに七時四〇分着、静岡SAに九時一五分着、途中富士山を左に見ながら向かう。海老名SAには一一時〇五分に到着した。

千葉市通町公園近くで武者行列を見る。日置郡上市長が淡香（うすこう）の狩衣を着て馬に乗り通り過ぎられた。市長は、郡上から来た私達に気づかれたようでにっこりとされた。日置市長の登場に間に合う事が出来てほっとした。熊谷千葉市長を先頭に続々と馬に乗ったそれぞれの首長が通られた。



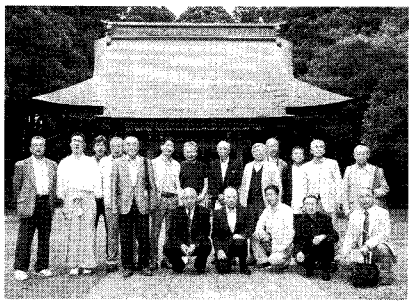
武者行列の雄姿

千葉神社で記念写真を撮る。狩衣に刀を差された九人の各地の市長さん等が、尊星殿の額が掛かる朱色の御門の前で並ばれて記念写真を撮られていた。

千葉神社尊星殿前にて

その後、我々は千葉市を一旦離れて、東庄町の東大社に向かった。そこでは「鳳れん」という御輿を見た。

東大社略記（御神名と皇子の御名は古事記と日本書紀の表示を混用）



東大社前にて

【御鎮座地】

東大社の御鎮座なさっているこのところは千葉県香取郡東庄町宮本字八尾四〇六番地

【御祭神】

主神に玉依姫命（タマヨリヒメノミコト）相殿に鵜葺草葺不合尊（ウガヤフキアエズノミコト）を祀る。玉依り姫命は海神の御娘生まれ、鵜葺草葺不合尊の后になられ、人皇第一代神武天皇外三柱の皇子を挙げられた。

【社名】

創建当時は東宮八尾社と称したが康和四年に朝廷から総社玉子大明神の号を賜り、爾来、王子大明神と共に永年併せ用いられた。世上で親しみ呼ばれるオオジン様は、この王子大明神のなまったものと言われる。

現在は東大神、東大社と共に正式に用いられている。

【創立】

人皇第一二代景行天皇の皇子日本武尊（ヤマトタケルノミコト）は武勇に優れ、九州の豪族熊襲武（クマソタケル）出雲の豪族出雲武（イズモタケル）等当時まだ大和朝廷に従わぬ豪族を従え、次いで東北地方を和らげ、大和へ凱旋の前に伊勢の国で薨じられた。

天皇は追慕の御心抑え難く皇子の戦歴の後を親しくご視察なさるため、この東国へ行幸なさりその途上当社の裏の白幡の地に船でお着きになった。そこで七日間お泊まりの際に東海の鎮護として一社を営なまれたのが当社の創めと伝えられる。千八百数十年前の事である。古くは東の社香取神宮。

一五時五〇分到着し見学した。その後、東大社を参拝し東庄郷土史研究会の方の説明を受ける。

夕食懇談会は鯉屋旅館にて、参加者は金島正好副町長、林寛公民館長、東庄郷土史研究会の方々、それに美味しい魚。

千葉サミット二日目、

九時半ホテル出発し成田山新勝寺へ、沢山の僧侶が参られる特別の行事の中、見学した。

昼食は道の駅「海老屋」にて。バスで会場の三井ガーデンホテル千葉へ向かう。

●記念講演

テーマ「千葉常胤　六三歳で世に出た人」

講師　近藤成一先生　放送大学教授　東京大学名誉教授

●歴史文化フォーラム

テーマ「千葉氏と妙見祭礼」

第一部を聞く

パネリストは、

一、日暮冬樹（佐倉市教育委員会文化課学芸委員）

二、小川智之（千葉氏顕彰会理事、千葉市議会議員）

三、古庄秀樹（小城市教育委員会文化課長）

四、齋藤武生（郡上市大和町文化財保護協会会長）

五、二本松文雄（南相馬市博物館学芸員）

六、佐藤育郎（いわて東山歴史文化振興会会長）

七、二瓶雅司（涌谷町教育委員会生涯学習課主事）

コーディネーター

濱名徳順（千葉氏顕彰会副会長）

発表内容

①日暮冬樹　佐倉市教育委員会文化課学芸員　発表資料「中世千葉氏の妙見祭礼」

②小川智之　千葉氏顕彰会理事、千葉市議会議員「妙見大祭について」

③古庄秀樹　小城市教育委員会文化課長「肥前千葉氏の信仰」

④齋藤武生　郡上市大和町文化財保護協会会長「千葉氏と妙見祭礼」

齋藤会長の話は、的確で要を得ていた。

齋藤会長の発表

⑤二本松文雄　南相馬市博物館学芸員「相馬氏と妙見信仰」

⑥佐藤育郎　いわて東山歴史文化振興会会長「妙見思想、妙見菩薩」

⑦二瓶雅司　涌谷町教育委員会生涯学習課主事「古式獅子舞」

下総に発して全国に散らばり各地で栄えた千葉氏の足跡を学ぶことができ、大変有意義なサミットであった。

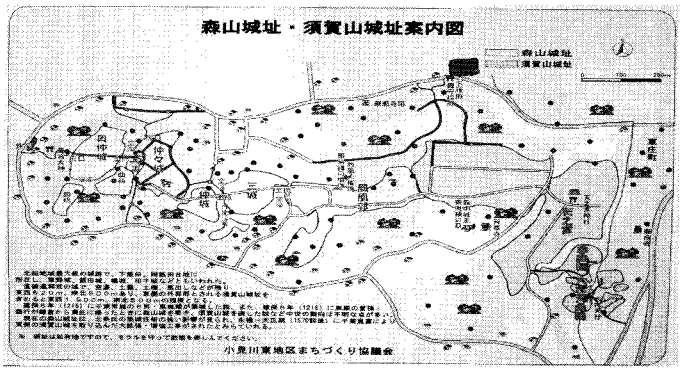
下総東氏の居城
森山築城八百年祭りに参加して

副会長　金子徳彦

森山城は、千葉県香取市小見川にある北総地域最大級の城跡である。標高五〇ｍほどの台地に空濠、土塁、土橋、馬出しなどが残る。東側に連なる東庄町の須賀山城址を含めると東西一五〇〇ｍ、南北五〇〇ｍの規模を誇る。

建保六年（一二一八年）東氏の初代（千葉常胤の六男）東頼胤が築いたとされており、平成三〇年、築城八〇〇年を迎えた。小見川東地区まちづくり協議会は平成二十五年に設立され、森山城に繁る篠竹を伐採し城跡を見やすくするなどの環境整備をし、我々の町にも視察に来られるなどの活動を続けてこられた。そしてこの年一一月二四日（土）に「築城八〇〇年記念講演会」を企画された次第である。香取市教育委員会が後援してはいるものの、すべてこの任意団体が仕切っておられたことに敬意を表したい。

小見川でこの手の催しは初めてということもあって「二〇〇人も集まれば御の字」という感じであったが、蓋を開けてみれば予想をはるかに上回り、三五〇人ほどの観客が押し寄せた。スタッフは急きょ資料を増し刷りするなど、うれしい悲鳴をあげておられた。



記念講演会では、初めに郷土芸能＝下飯田原宿獅子舞が披露された。この獅子は、元は夫婦揃っていたのだが雄獅子が東氏と共に郡上へ行ってしまい、雌獅子だけが東荘に残ったという伝承がある。

つまり大和町牧の明建神社「七日祭り」で舞う獅子は、その雄獅子だということになる。これから郡上市で計画することとなる「東氏来郡八〇〇年祭」には、ぜひ八〇〇年振りに夫婦水入らずの機会を実現させてやりたいものだと感じた次第であった。

次に大和町でも記念講演をしていただいたことのある、千葉氏研究家鈴木佐氏による「東胤頼とその末裔について」と題した講演があった。鈴木佐氏は小見川町出身であり父親は小見川町の町長を務めた方であるが、地元で話をするのは初めてだとのこと。感慨深い思いがあり力がこもったお話であった。

そして私自身は「美濃に来た東氏―和歌の家柄・東氏の里のまちづくり」と題して、大和町が歩んできた町づくりの話をした。

翌日には、町づくり協議会の中心人物である石田廣行さんの案内で改めて森山城を見学してきた。城跡の多くは私有地が入

り組んでおり、畑や牧場として利用されている。故にきちんとした調査ができなく文化財としての指定もまだされていないとのことであった。惜しいことである。

春季日帰り研修

尾張徳川氏と愛知県南知多の文化財を訪ねて

松井清治

今回の日帰り旅行は「尾張徳川家の至宝」・徳川美術館の見学知多美浜町の野間大坊の拝観等の計画で実施された。

四月五日朝は旅行日和の天候で、午前八時の定刻に美男美女総勢二四名が大和振興事務所を出発した。

途中関SAで休憩し、東海北陸自動車道から名神高速道路、一部東名高速道路を経由して名古屋に向かった。

■車内研修「花ノ木とは」

道中で大和町大間見在住の小野江勉さんより、近隣に生息している「花の木」についてお話をいただいた。この植物はカエデ科の落葉高木（「シキミ」の異名もある）で日本ではとても珍しいものだそうだ。

細部にわたる熱心な解説をいただき一同耳を傾けていると、九時五〇分頃、最初の目的地徳川園に到着した。

■徳川園・徳川美術館・蓬左文庫（ほうざぶんこ）

徳川美術館の開館が十時ということで、少々の待ち時間があったが皆さんそれぞれに時間調整し、開館と同時に我先にと入館した。

徳川美術館では、開館直後ということで見学者も少なくゆったりと見学できた。尾張徳川家に代々伝わる一万件余りの文化財の豪華さに圧倒された。

特別展徳川家の雛人形

今回は、特別展ということで徳川家の姫君のためにあつらえられた雛人形と豪華な雛道具を目の当たりにし、皆ため息とともに憧れの眼差しで見学していた。

蓬左文庫には、江戸時代以降の一般庶民の町中を飾ったお雛様が展示してあり、「あっ！この雛人形、自宅にもあったなあ」なんて会話しながら楽しく拝見させていただいた。

徳川園は尾張徳川の二代藩主光友の隠居所として作庭された池泉回遊式の大名庭園で、その庭園の広さ意匠と風格に圧倒された。

そのためか徳川園の出発時間は一一時一〇分だったが、参加者の中で迷子になった人があり、一五分遅れの一一時二五分の出発になってしまった。その後は南知多道路を昼食会場へと向かった。

■まるは食堂（豊浜）

「豊岡IC」を経て、参加者お待ちかねの昼食会場「まるは食堂旅館」へは三〇分余り遅れて到着した。

伊勢湾が展望できる食堂でジャンボエビフライなど新鮮な魚介類と豪華な料理に（特にシャコが一番おいしかったかな？）飲み物もあり皆舌鼓を打ちながら、大いに盛り上がった。

食事は一時間たっぷりと過ごし、次は海産物土産のある「豊浜魚ひろば」にて土産を物色した。価格的にも比較的安価のように感じた。ここでは「鯛まつり」が開催されていた。

ここを一四時二〇分に出発し、次の目的地である「野間大坊」目指してバスを走らせた。

■大御堂寺（野間大坊）

一四時五〇分に「野間大坊」に到着し、直ぐに客殿に案内されてこの寺院の御住職より建立時期等の解説、そして、「平治の乱」で敗れた源義朝の最後などのいきさつを、レプリカの絵図（元の絵は、狩野探幽作の掛図）により事細かに解説していただいた。

大御堂寺の客殿前で

その後境内にある「源義朝のお墓」などを散策した。そのお墓には源平ゆかりの護摩木が数多く奉納されていた。

この寺は七世紀の建立で真言宗の大寺院であり、本堂や鐘楼なども鎌倉様式のどっしりとした武家らしい趣だった。三人のボランティアガイドさんによる説明も大変分かり易かった。

最後に住職による懇ろなる会員一同の家内安全祈願の護摩祈祷を受け、寺を後にした。

■かねふくめんたいパーク

最後は「かねふくめんたいパークとこなめ」で工場見学をした。ここでは買い物の時間を十分取り、出発は一七時五〇分。南知多道路「りんくうIC」を経て、本日の全日程を終え帰途についた。時間も一八時を少し回っており、東海北陸自動車道長良川

大御堂寺の住職による「絵解き」

SA」で各自夕食し大和町へは当初の予定より少し遅れ一九時二五分頃の帰着となった。参加者の皆様のご協力により何事もなくこの研修旅行を終えることができた。また昼食時には準備の時間を利用して自己紹介をし合い、会員相互の顔と名前を知り合うことができ、一層親睦が深まってよかった。

秋季日帰り研修

三上遠藤氏・近江商人の文化と歴史を訪ねて

村井紀幸

一一月七日（水）二四人の参加で、快晴で夏日という絶好の日和の中、大和を出発した。研修先は、近江八幡の街並み見学、御上神社の拝観、銅鐸博物館の見学である。

■近江八幡

近江八幡の街並み見学は、二つのグループでガイドさんの説明を受けた。元々は、関白豊臣秀長が八幡山を中心にして開いた街で、中山道沿いにあり江戸時代には朝鮮通信使も行列をなして往来した。

「粋な黒塀や見越しの松に、婀娜（あだ）な姿のお富さん」などと歌の文句にもなった江戸の風景の基はこの地だそうである。

一見地味だが、粋な家屋の装いに表畳や萱（かや）を行商して全国を売り歩き、財を成した近江商人の気質が感じられた。

また、明治期に英語教師として来日したアメリカ人ヴォーブスによるメンソレータムの会社の設立や各種の建築物などにも、目を見張るものがあった。

黒塀と見越の松

水郷地帯は映画やドラマのロケ地として有名で、流石に風情があった。皆さんバームクーヘンや赤こんにゃくなど当地限定の土産を熱心に買いこんでいた。

■「サガミ近江八幡店」で昼食

食事は、旅行社専用のメニューだけあってボリュームもあり美味しくいただいた。また、男性の一群は食事中も歴史談義に興じるなど、とても熱心な研修風景であった。

■「鮎家の郷」での買い物

買い物の店は「流石！近江」と感じさせるもので、外観など店全体の設えから内部の商品の陳列の仕方まで細かくコーディネートされた完璧な佇まいでした。店一杯に並べられた琵琶湖産の幸を使った巻物や佃煮などの買い物を皆さん堪能していた。

■御上神社

御上神社は天照大神の孫が祀られている古社であり、本殿や拝殿などやや小造りであるけれども、檜皮葺（ひわだぶき）屋根の橇（そり）や濡れ縁、御簾などの設えや佇まいに古代人が「雅」に感じたであろう上品さが感じられた。

八十歳とは思えないくらい元気いっぱいでユーモア溢れる女性ガイドさんの名調子の案内で、とても楽しく拝観することができた。

御上神社桜門前にて

■野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）

銅鐸博物館では学芸員から三上における遠藤氏について解説を受けた。遠藤氏は郡上から移封後、譜代大名として三上山の麓に広がる三上藩を治め、譜代大名として幕政の中でも大坂定番や若年寄として活躍した。

その後難波の和泉国へ移封となり出自の「東」姓に戻り明治を迎えたということである。

銅鐸博物館での展示説明

■研修まとめ

近江までの行程は少し距離があったが金子副会長に「俵藤太（たわらとうた）三上山の大ムカデ退治」の話をしてもらい、とても堂に入った語りで一同大変感銘を受けた。

また今回はバスガイドさんが同行していて、車内の世話や観光ガイドは勿論のこと「琵琶湖周航の歌」や「故郷」など場に応じた素敵な歌を披露されるなど、研修に花を飾って頂けた。

今回の旅行ではバスの車内見学場所共とても質が高く中身の濃い研修ができ、我が「郡上東氏」の子孫である「郡上遠藤氏」のその後の展開についてのより深い認識を得ることができたと思う。

「古今伝授」の貴重な資料を現代の私たちに残してくれた三上遠藤氏の業績に対して、改めて深く感謝したいという思いを強くした研修旅行となった。

平成三十年度　高橋教雄先生の講演より

二千石旗本遠藤氏について

細江幸久

はじめに

高橋先生は、郡上乙原二千石遠藤氏の最後の子孫である遠藤文子さんから次のようなお話を聞かれた。

「私は財産を処分して施設に入って余生を過ごしたい。遠藤家は私まで一三代続き、私で絶えます。遠藤家に伝わり、関東大震災や戦災などを生き抜いてきた古文書・巻物など百点ほどを私の代で無くしたくありませんので、郡上市に寄付をして、いろいろな形で公開いただけないでしょうか。」と

遠藤家資料の話は初めに美並の乗性寺へあり、次いで高橋先生に連絡があり、それを調査された。

主だった資料は

◎郡上藩が西軍から東軍に変わるきっかけとなった書状

◎東殿山の戦いのときの勧状

◎齋藤氏が臣下に入れた手紙

娘婿が関わっている史料

◎木越遠藤の家元に武田信玄の

書状

手紙

◎信長の武将である事を示す書状

◎遠藤但馬の守に与えた手紙

◎宗易「利休」との書状

◎遠藤義隆が契沖に与えた手紙

◎宗易「利休」との書状

◎家康との手紙

◎七月二九日に家康の花押入りの書状

◎遠藤氏関係の遺跡の図・陣屋の遺構

◎二千石遠藤のお墓

◎残した文書、巻物が三巻

二千石遠藤の古文書一巻

巻物三巻を含む六十五点

◎初代遠藤義隆の資料

◎郡上は遠藤家が領地すると家康が保証した文書等々の資料を基にしての講演が中心であった。

①二千石遠藤の成立について

正保三年、遠藤常友は遠藤大輔常昭に二千石を分地、山田金兵衛常規に一千石を分地

②三上遠藤の禄高一万石

旗本は将軍直属の大名

三上遠藤は本家が三上で、一万石、一万石以下は身分的に旗本であるが、大名扱いである

③旗本遠藤家はどのような仕事をしたか

遠藤胤城は旗本として主に軍事に携わった。

他藩お取り潰しのときには、軍臣及び、城の受け取りの仕事をした。

桜田門外の事件では幕府と水戸藩の間を仲介した。

大塩平八郎の乱では、旗本として鎮圧に関わった。

④永禄二年齋藤義龍と遠藤盛数が郡上赤谷山の戦いでは郡上の東氏が翻弄され常隆は白川へ逃げ帰雲城で死ぬ。

⑤遠藤喜四郎について

系図から別府喜四郎のこと

盛数と兄妹の女子の嫁ぎ先が別府である。

⑥東殿山の戦いでは、遠藤の遺児胤利が関わっているのではなく、娘婿が関わっていることが分かる

⑦遠藤六郎左衛門は遠藤盛数のことである。

⑧金森長近、遠藤義隆の娘が妻、金森宗和、茶道の関係で遠藤家と繋がる。

⑨利休との書状で、茶道との関係があったことが分かった。

⑩木越遠藤について

遠藤義隆の父の兄が木越遠藤当時の中央も二家を遠藤と認めていた。

⑩家康とかなり交流している。

関が原の戦い直前の書状

本来は本家に残る三文書が残っている。

初代郡上城の藩主義隆が一番大切にしたのは、徳川家康の文書

郡上遠藤が続いた基は家康の許状があったから。

遠藤家の資料から読み取れることの紹介はたくさんあったが、詳細については記述しきれない。

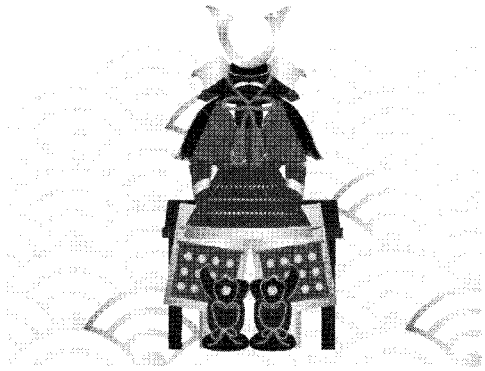
◎先生の講演を聞いて

地方の小藩と思っていた郡上藩が、歴史の上ではこんなにも中央とつながりがあったのかと知りたいへん驚いた。

特に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など時の権力者に忠誠を誓い、それによって郡上の領地を安堵されたこと、東軍西軍に分かれて関が原で戦った天下分け目の戦いのときにも、郡上藩はその前哨戦を戦っていることなど、遠藤家がその後長く続いてきたのは、徳川家康の許状あってのものであり、このような文書が実際に遠藤家に残っているというのは驚きである。

古くは東氏の時代から明治に至るまでの貴重な資料を伝え守ってこられた遠藤家は、確かに郡上の名門であることを感じさせられた。

また、これだけの多くの古文書を読み取って、その歴史的な背景や人々の繋がりを説明される、高橋先生の学識に感銘を受けたのは私だけではなく、会員一同そうであったと思う。



文芸欄

俳句

余寒

渡邊　千恵

三日見ぬまにほころび盆の梅
立春を寿ぎ総舞の静恵会
祝宴を外し余寒の縁にあり
舞扇余寒の要返しけり

伝説の里

山内　敏子

ほととぎす篠脇山の朝の声
雨上がり永久のふる里椿展
天保雛歴史伝える和歌の里
常縁の歌碑にゆるやか秋の風

短歌

白い道

井俣　初枝

廊歩む音聞き分けて我を呼ぶ
　老人ホームのいつもの一人
いちにちの空の青さよ向日葵の
　大き貌して日輪を追う
木犀の香にしたしみて外に佇てり
　雨は小さき花ふり零す
秋の日の落ちし畠に並立てり
　韮の花群白道となる

歴史多き町

山内　敏子

帰りみち篠脇山の十五夜に
　亡き始しのびゆっくり歩む
すっかりと美濃のやま山枯葉山
　雪の白山きわだち映える
参道の中程すすむ獅子舞は
　中高年の八本の足
杜ふかき長滝神社白山の
　延命の水こくこくと汲む

出会い

大井　正明

白峰の遠くにかすみて春近し
　今年の農をひそかに思う
訪ぬれば篠脇山の裾に咲く
　節分草に逢えて嬉しき
韋駄天の像に合し長滝寺
　よくぞ参上奥美濃までも
春くれば湧くがごとしさくら花
　北に向いて待つ人ぞあり

八十歳

石神　堯生

鳥がエサヲを啄ばむように
　薬飲む旅に出かける朝の一時
八十歳　逆さに読めば十八歳
　あたかも衰と盛りのシンボル
オリンピックに命を掛ける十八歳
　それまで生きたい我八十歳
伸び行くもの縮み行くもの混在して
　日本は繁栄国家と自称す

平成30年度　事業報告書

四月　五日（木）　春季日帰り研修（徳川美術館特別展見学と南知多の文化財）参加二四名
五月　一日（火）　第一回執行部会（つくしの家）
　　三日（木）　第一回役員会（大和庁舎三〇一会議室）千葉サミット参加について
　　一八日（水）　「文化財やまと」四三号編集会議
　　二三日（水）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会
　　二六日（土）　千葉常胤生誕九百年記念　第二回千葉サミット
　　二七日（日）　（三井ガーデンホテル千葉）大和町文化財保護協会から一六名参加
六月　五日（火）　役員会（文化財総会について）
　　八日（金）　平成三〇年度大和文化財協会総会、（大和庁舎防災研修室）
　　①平成二九年度事業報告・決算報告
　　②平成三〇年度事業計画・予算の承認
　　③会報「文化財やまと」四三号発刊（発行部数二五〇部）
　　④記念講演「旗本二千石遠藤家」郡上八幡地域史家　高橋　教雄　氏
七月　三日（火）　第二回執行部会
　　一七日（火）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
　　二六日（木）　第二回郡上市文化財保護協議会理事会（文化財標柱設置について）
　　二八日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（会員および上剣地区民参加）
八月　七日（火）　七日祭・薪能
　　二六日（日）　上剣赤保木祭
九月　四日（火）　研修部会（秋季日帰り研修について）
　　一一日（火）　第三回執行部会（秋季日帰り研修について）
　　二五日（火）　第三回役員会（平成三〇年度　秋季日帰り研修の計画・実施について）
一一月　七日（水）　秋季日帰り研修（三上遠藤氏・近江商人の文化と歴史を訪ねて）
　　参加二四名
　　二七日（火）　第四回執行部会
一月一三日（日）　第四回役員会（事業・会計中間報告、当面の課題について、懇親会）
　　一九日（土）　文化財標柱設置作業（史跡　福田古墳　史跡　牧　木蛇寺跡　慈永大姉の墓　天然記念物　牧　水神神社のムクロジ　天然記念物　神路　白山神社　六本ヒノキ）
二月　七日（木）　研修部会（平成三一年度春季日帰り研修の計画）
　　一四日（木）　第五回執行部会（平成三一年度春季日帰り研修の計画）
　　二六日（火）　万場社教施設民俗資料館視察・第五回役員会
　　（民俗資料保護、平成三一年度春季日帰り研修、事業・会計報告）
三月　五日（火）　「文化財やまと」四四号編集会議
　　二五日（月）　執行部会（役員改選について）
　　二七日（水）　第三回郡上市文化財保護協議会理事会

令和元年度　事業計画（案）

四月一一日（木）　春季日帰り研修
　　（古都奈良の文化財を訪ねて）参加者二七名
　　一七日（金）　「文化財やまと」四四号編集会議
　　二三日（木）　第一回郡上市文化財保護協議会理事会
　　二四日（金）　第一回役員会（大和庁舎三〇一会議室）
六月一四日（金）　令和元年度大和文化財協会総会、（大和生涯学習センター二階）
　　①平成三〇年度事業報告・決算報告
　　②令和元年度事業計画・予算の承認
　　③会報「文化財やまと」四四号発刊（発行部数二五〇部）
　　④記念講演「山内一豊夫人の出自　決め手は古今和歌集」
　　郡上八幡地域史家　川上　朝史　氏
七月　二日（火）　第二回執行部会
　　一一日（木）　第二回役員会（奉仕作業への取り組みについて）
　　下旬　第二回郡上市文化財保護協議会理事会
　　二七日（土）　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃（剣上地区参加）
八月　七日（水）　七日祭・薪能
　　二五日（日）　上剣赤保木祭
九月　三日（火）　研修部会（秋季日帰り研修について）
　　一〇日（火）　第三回執行部会（秋季日帰り研修について）
　　二四日（火）　第三回役員会（秋季日帰り研修の計画・実施について）
一一月　初旬　秋季日帰り研修
　　二六日（火）　第四回執行部会
一月　中旬　第四回役員会（事業・会計中間報告、当面の課題について、懇親会）
二月　六日（木）　研修部会（令和二年度春季日帰り研修の計画）
　　一三日（木）　第五回執行部会（令和二年度春季日帰り研修の計画）
　　二五日（火）　第五回役員会（令和二年度春季日帰り研修、事業・会計報告）
三月一二日（木）　「文化財やまと」四五号編集会議
　　下旬　第三回郡上市文化財保護協議会理事会

会員名簿（順不同）

令和元年５月現在

● 顧問		
籏　勝美	(剣)	88－2031
日置敏明	(大間見)	88－2254
■ 剣		
田中和久	(理事)	88－2200
(田中康久)		88－2200
森前登志子		88－3479
小池祐二		88－4064
田代全廣	(理事)	88－3835
(田代寿子)		88－3835
河合　尚		88－2304
日置智夫		88－2730
加藤典子		88－3687
武儀山博之		88－3401
河合利雄	(理事)	88－3520
加藤文蔵		88－2802
佐藤光一	(名誉会長)	88－3201
(佐藤八重子)		88－3201
山内　博		88－2886
(山内悦子)		88－2886
村瀬方彦		88－2008
日置武雄		88－2303
■大間見		
大野一道	(理事)	88－2230
(大野紀子)		88－2230
青木ユリ子		88－3477
村井紀幸	(理事)	88－2323
池田充彦	(理事)	88－2796
小野江　勉		88－2725
藤代順行		88－3060
松井賢雄	(理事)	88－3991
坪井由佳子		88－3990
■万場		
桑田守夫	(理事)	88－2514
石神堯生		88－2413
畑中真智子		88－2441
稲葉和巳		88－2503
黒岩弘己		88－2458
桑田洋一		88－2414
青地正男		88－2447
大井正明	(理事)	88－2894
籏　清子	(理事)	88－4170
大中登志枝		88－3624
■徳永		
細江幸久	(書記)	88－4157
(細江和子)		88－4157
渡辺睦子	(理事)	88－2076
遠藤賢逸		88－4141
(遠藤富貴子)		88－4141
村瀬弥治郎		88－2602
山内敏子		88－2120
■神路		
山田正代	(理事)	88－2114
山田味代子		88－2844
山田敬子		88－2336
臼田金市		88－3883
(臼田路子)		88－3883
野田加奈枝		88－3460
山田幸子		88－2693
■ 牧		
齋藤武生	(会長)	88－3922
(齋藤純子)		88－3922
滝日一正		88－3064
松森幹男		88－3919
遠藤伝司	(監事)	88－3934
日置光一		88－3001
瀧日千代美		88－3059
三浦泰治	(理事)	88－9080
(三浦愛子)		88－9080
粟飯原明子		88－2362
日置人司		88－2662
田口勇治	(理事)	88－3950
遠藤高真		88－2890
野田嘉明		88－3043
金子政子		88－3426
早瀬ふみ子		88－3327
■栗巣		
野田恵光	(理事)	88－4027
島崎増造	(監事)	88－2236
筧　政則		88－4031
増田洋子		88－4041
道家稔啓		
(道家真由)		
島崎貢一		
■古道		
金子徳彦	(副会長)	88－3063
細川　優	(理事)	88－2861
松井清治		88－3118
遠藤賢雄		88－3983
■落部		
常平　毅	(副会長)	88－3837
(常平真由美)		88－3837
本川喜代士		88－3833
(本川清子)		88－3833
柴垣　諭		88－3239
(柴垣香久子)		88－3239
小島与三		88－3814
(小島洋子)		88－3814
■ 島		
奥田昌明		88－2520
森藤雅毅	(理事)	88－2684
奥田弘親		88－2431
木島　清		88－3304
森藤龍史		88－2154
和田平八郎		88－4324
森　憲司	(会計)	88－2554
田中　篤		88－2792
山田長次		88－3648
■特別会員		
大和観光協会		88－2211
■賛助会員		
郡上大和総合開発株式会社		88－2525

正会員	82名
家族会員	15名
合計	97名

◆◆◆ 平成30年度 決算報告書 ◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	1,526	平成29年度より
会員会費	185,000	正会員 85名　家族会員 15名
	36,000	特別会員 2口　賛助会員 3口
助成金	81,000	郡上市より
雑収入	0	
合計	303,526	

（支出の部）　（単位：円）

項目	決算額	摘要
総会費	18,006	記念講演（高橋 教雄 氏） 総会お茶
会議費	6,484	執行部会 運営各部会 役員会
会議費小計	**24,490**	
会報発行費	57,240	会報「文化財やまと43号」250部
ホームページ運営費	5,466	さくらレンタルサーバー
奉仕活動費	6,312	文化財清掃奉仕作業 傷害保険
文化財保護費	8,400	七日祭 赤保木祭
研修費	93,321	春季・秋季日帰り研修補助 役員研修
記念事業積立金	60,000	
事業費小計	**230,739**	
消耗品費・事務費	6,230	用紙代・印刷代 等
通信費	12,038	はがき・切手 手数料
事務局費小計	**18,268**	
負担金	20,000	市協議会費
補助費	3,711	千葉サミット参加
次年度繰越金	6,318	
合計	**303,526**	

◆◆◆ 令和元年度　予算（案）◆◆◆

（収入の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	6,318	平成30年度より
会員会費	185,000	正会員 85名　家族会員 15名
	36,000	特別会員 2口　賛助会員 3口
助成金	81,000	郡上市より
雑収入	182	
合計	308,500	

（支出の部）　（単位：円）

項目	予算額	摘要
総会費	20,000	記念講演（川上 朝史 氏） 総会お茶
会議費	10,000	執行部会 運営各部会 役員会
会議費小計	**30,000**	
会報発行費	60,000	会報「文化財やまと44号」250部
ホームページ運営費	10,000	レンタルサーバー代
奉仕活動費	10,000	文化財清掃奉仕作業 傷害保険
文化財保護費	10,000	七日祭・赤保木祭 文化財標柱設置
研修費	100,000	春季・秋季日帰り研修補助 役員研修
記念事業積立金	10,000	
事業費小計	**200,000**	
消耗品・事務費	10,000	用紙代・印刷代 等
通信費	15,000	はがき・切手 手数料
事務局費小計	**25,000**	
負担金	20,000	市協議会費
予備費	33,500	
合計	**308,500**	

平成30年度の歳入・歳出処理について監査を行ったところ、適正に処理されていましたことを報告いたします。

令和元年５月24日

監事　島崎増造　監事　遠藤伝司

編集後記

現代も変わりなく受け継がれている由緒ある明建神社の七日祭、遠く東氏の初代から続く千葉県香取市小見川の森山城跡、郡上藩遠藤氏の流れをつなぐ近江八幡の街並みと文化、時代の移り変わりのなかで途絶えず続いて来ているのは、文化財保護に関わる人々による努力のお陰です。

いくつもの時代が移り変わっても、今まで通り文化財がそこにあり続けることには尊い意味があります。

今回、「文化財やまと」令和元年号をお届けするにあたり、ご寄稿いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

本協会会員の皆様方には、今後ともご意見ご感想をいただき、行事等にも参加していただきますようお願いします。

新しい令和の時代になっても文化財を守り伝えていこうとする活動が変わりなく続いていくものと確信しております。

（編集子）

「文化財やまと」第四十四号　令和元年六月一四日発行　発行者／大和町文化財保護協会　代表者／齋藤武生　印刷者／白鳥印刷